

# リンゴ中生品種「シナノゴールド」は食味と日持ちに優れる

本県のリンゴ栽培の品種は、11月収穫の「ふじ」が7割を占めています。近年は、多様な消費者ニーズや収益向上を目的に、10月に収穫できる中生種が注目されています。そこで従来品種に比べて、食味が良く日持ちの優れるリンゴ「シナノゴールド」を選定し、本県における品種特性を明らかにしました。

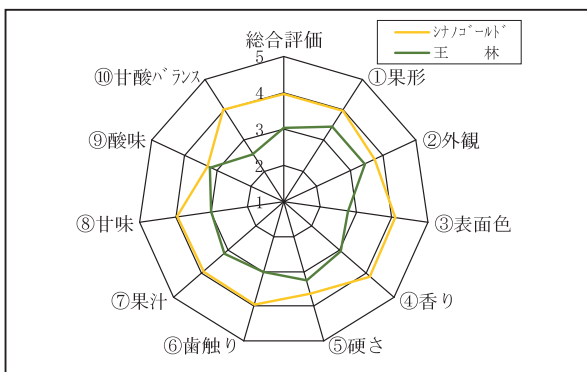
## ● 品種特性 ●

この品種は、「ゴールデンデリシャス」×「千秋」の交配種として長野県で育成され、平成11年に品種登録されました。茨城県では、10月に成熟し、外観は明るい黄色、糖度は15度前後と高く、やや酸味を感じるさわやかな食味です。果肉は粉質化しにくく、収穫後は室温で30日間程度日持ちします。

品種名	樹齢	満開期	収穫盛期	果実重	硬度	糖度	酸度	日持ち
				g	lb	%	%	室温
シナノゴールド 6年		5月1日	10月10日	304	15.0	14.9	0.39	30日
王林	30年	4月26日	11月5日	349	14.1	14.5	0.28	20日
		※わい化栽培						



リンゴ「シナノゴールド」



アンケート結果（平成20年10月）

## ● 消費者アンケート ●

平成20年10月下旬に行った、消費者へのアンケート調査では、外観・香り食味等の多くの項目で、同じ黄皮色の「王林」と比べて、「やや良い」と評価されました。

食味の感想では、「味が濃くておいしい」「味のバランスが良い」、「香りがあって果汁も多い」、「歯触りが良い」など好評な意見が多くありました。

（回答者：64名、20～70歳男女）

## ● 栽培の留意点 ●

- ・10月に収穫できる中生種として、県内リンゴ産地で栽培が出来ます。
- ・収穫始めは酸味が強い傾向があるため、甘みと酸味のバランスに注意して収穫を始めます。
- ・側果でつるさびの発生が多く見られるので、中心果を残すようにします。
- ・収穫前落果があるため、落果防止剤を使用します。
- ・「ふじ」「つがる」「王林」との交雑和合性は相互に高く、開花期は「ふじ」より1日程度遅れます。